

平成29年度 施策評価表

課・グループ名	まちづくり課企画情報グループ
---------	----------------

作成年月日：平成 年 月 日

施策名	1 - (2) - ② 行財政改革の推進		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	1. 町民協働に支えられる自立したまちづくり	(2) 持続可能な行財政運営の推進	② 行財政改革の推進
① 施策のねらいと展開方向	● 南幌町行財政改革実行計画に基づいて、効率的かつ効果的な施策を進めるとともに、毎年度進捗状況を管理し、達成度について評価検証を行います。		
② 施策の現状と課題	現 状 ● 南幌町行財政改革実行計画が平成28年度で終了し、継続して行財政改革に取り組むため新たな南幌町行財政改革実行計画を策定しています。 ● 北海道からの事務権限移譲については、行政体制の充実・強化、住民サービスの向上を目指し、積極的に進めています。	課 題 ● 南幌町行財政改革実行計画に基づく改革項目を計画的に実施していく必要があります。	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化	
	行財政改革実行計画に登載されている改革項目が計画的に実施されているか確認するため、南幌町行財政改革実行計画登載項目の実施率を代替指標として設定する。			成果指標 (総合計画・施策評価)		可能	
						不可能	
						未計測	
				代替指標 ※成果指標がない場合	指標の設定		
	改革項目実施率	○	可能				
			不可能				
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H26	H27	H28	H29	H33	
目 標				100	100	100	
実 績				95.2	100		
達成率	%			95.2%	100.0%		登載項目について、当該年度の取組み状況を確認し、全項目実施している。
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				施策の 達成度	第2次南幌町行財政改革実行計画(H29年度～H33年度)の着実かつ適正な実行を図るため、各年度の取組み状況について、行政経営幹事会及び行政評価委員会にて、協議・評価を行い、実行計画を進行管理している。
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				A	
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H29実績	H30予算
					1	行財政改革推進事業					(1)	まちづくり課	改革項目実施率
					100	%	0	0					
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
H29事業費											0		
H30予 算											0		

②H30に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	第2次南幌町行財政改革実行計画は、行政経営幹事会において協議し、行政評価委員会及び議会に意見を求めた行財政改革項目について、短期的かつ集中的に実行する計画として策定しており、「行財政改革項目(25項目)」の取組み状況について進行管理を行うことは、事業構成として妥当である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の 妥当性	A

4. 今後の方向性 ※外部評価 (行政評価委員会)										
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の 方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号						平成30年度以降 の予算の方向性	
			A							
			B	1						拡大
			C							○ 維持
			D							縮小